

テーマ

英語プロソディの効果的な習得

適用
分野

第2言語習得、
TESL/TEFL、
speech production/perception



研究
名称

ローパス・フィルター音は聴き取り、発音にどのような影響をもたらすか

氏名
所属

伊庭 緑 教授
全学共通教育センター

内容

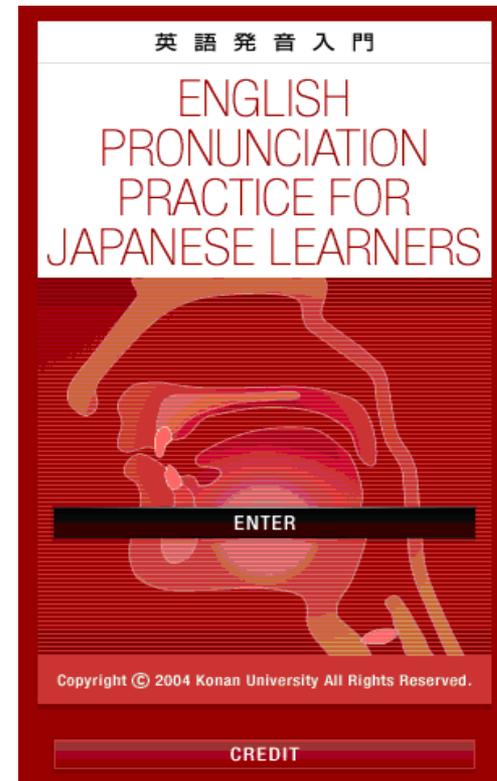
日本語は mora-timed language, 英語は stress-timed language と言われていて2つの言語のリズムは大きく異なります。日本人にとって英語の発音と言え、/r/と/l/の発音が苦手と言われますが、実際の英語のコミュニケーションでは、リズムやイントネーションも重要な役割を果たします。このリズムやイントネーションのことをまとめてプロソディといいます。どうすればプロソディを効果的に学習できるのでしょうか。

会話音の周波数領域は 200 Hz ~ 2000 Hz といわれていますが、その周波数領域の 200 Hz 以下だけを音声フィルターにかけて通すと不明瞭な音(ローパス・フィルター音)が聞こえてきて会話の意味はわかりません。ただプロソディはかえってはっきりするので英語の聴き取りや発音の訓練に役立ちそうです。

現在の私の研究テーマは本当にローパス・フィルター音がプロソディ習得に効果があるのかを検証することです。そのためにコンピュータのソフトウェアを作成して実験を行っています。

右はローパス音を入れずに作った英語発音入門

というソフトですが、ローパスの効果を検証されればまた新たなバージョンを作りたいと思っています。



<http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/english/>

キーワード

プロソディ、ローパス・フィルター、英語発音練習ソフト

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 □ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究